

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	0172902447		
法人名	社会福祉法人 旭川市社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム鈴懸		
所在地	旭川市神楽岡10条5丁目1-28 (電 話) 0166-60-6222		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成19年12月11日	評価確定日	平成20年2月5日

【情報提供票より】(19年9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	15 人	常勤 13人, 非常勤 2人, 常勤換算	7.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	17,000~22,000 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	0	要介護2	2
要介護3	4	要介護4	2
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 85 歳	最低 74 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	旭川リハビリテーションクリニック、山下内科・循環器科、北野歯科医院
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム鈴懸」は旭川市社会福祉協議会が介護保険事業の収益を地域に還元することを目的とし、平成17年に開設された事業所である。自主事業として宿泊サービスを実施したり事業所の2階を交流スペースとして開放するなど、地域との交流に積極的に取り組んでいる。また、事業所には中庭が設置されたり居室には障子風のドアを使用するなど、家庭的な雰囲気を有している。今後も利用者が地域においてその人らしく生活することが期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価においての課題であった感染症対策について、対応マニュアルを作成して内容の周知を行うとともに、外部研修へ積極的に参加するなど改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前年度の自己評価表と照らし合わせながら今回自己評価を行い、気付きを日々のケアサービスに活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を2ヶ月に1度開催し、事業所の運営状況・行事予定・外部評価の結果等について報告し、意見交換を行っている。また、地域包括支援センターと密に連携を取っており、協力が得られる体制を築いている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	3ヶ月に1度事業所便りを送付し、利用者の暮らしぶりや健康状態等を家族に報告している。また、重要事項説明書に内部・外部の苦情相談窓口を明示し、家族に伝え意見・要望等を反映できるような体制を整えている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、花見や敬老会などの地域の行事に参加している。また、事業所の2階を子育てサロンや介護教室の場として活用するなど、地域との交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域や家族との繋がりを大切にした独自の理念をつくりあげ、住み慣れた地域でのその人らしい暮らしの実現に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に理念を掲示したり、会議で話し合っ て理念を確認し、その実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、花見や敬老会・温泉旅行などの地域の行事に参加している。また、事業所の2階を子育てサロンや介護教室開催等に活用するなど、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の評価結果や自己評価表と照らし合わせながら、今回の自己評価に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催している。会議では事業所の運営状況や行事等について報告し、意見交換を行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて市の担当者と連絡を取るとともに地域包括支援センターと連携を取り、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月に1度事業所便りを発行し、利用者の暮らしぶりや健康状態等を家族に報告している。また、家族の来訪時にも利用者の様子を伝えるとともに緊急時にはそのつど連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に内部・外部の苦情相談窓口を明示し、家族に伝えている。また、家族会を設置し、家族が気軽に意見・要望等を伝えられるような工夫をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職・異動は最小限となるよう努めている。新規職員採用の場合は他の職員との連携を強化し、利用者との馴染みの関係を築けるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加したり、他の事業所職員との交換研修を積極的に行っている。また、研修参加後は会議で報告し、内容の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の職員交換研修を通じて同業者と交流し、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に事業所を見学してもらったり体験利用等により、利用者が事業所の雰囲気に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の生活歴や得意な事を把握し、教えてもらいながら支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事業所独自のシートを活用し、利用者の希望や意向を最大限把握できるよう努めている。また、困難な場合は家族や関係者からの情報を基に本人本位となるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの気付きや課題について職員会議で話し合い、本人・家族の意見を聞きながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度の見直しを行うとともに、利用者の状態変化に応じてそのつど検討し、新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設している事業所との交流やナイトケアなど、柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれのかかりつけ医への受診支援を行っている。また、協力医療機関と日頃から連携を取っており、緊急時に対応できるよう体制を整えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期についての指針を定めており、利用者本人・家族に説明し同意を得ている。また、利用者の状態変化に応じてそのつど本人・家族・主治医と話し合い、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りを損ねることのないような声かけや対応を心がけている。また、個人情報の取り扱いに関して契約書に明示し、適切に対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩・買い物時の付き添いや、併設している事業所利用者との交流など、柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じた食材を利用者と職員が一緒に買い物をし、楽しみながら食事の準備を行っている。また、一人ひとりの状態に応じて調理方法を工夫し、盛り付けにも配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じた入浴支援を行っており、毎日の入浴も可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理・洗濯物たたみ・お菓子づくり・掃除など、利用者の力や生活歴に応じた役割や楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物・理美容院・外食など、一人ひとりの希望に応じた外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者一人ひとりの行動や様子を把握し、見守りにより鍵をかけないケアに取り組んでいる。また、頻繁に外出傾向のある利用者に関しては、家族の同意を得た上で協力依頼文書を地域に配布するなど、工夫しながら利用者が自由に出入りできるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者を配置し、夜間も想定した避難訓練を年に2回実施している。また、運営推進会議を通じて緊急時に地域から協力が得られるよう検討中である。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者一人ひとりの食事・水分摂取量を記録し把握している。また、利用者の健康状態に応じて粥や刻み食など調理方法を工夫し、献立を栄養士に確認してもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間には花や写真を飾ったり茶箆箆を配置するなど、家庭的な雰囲気を感じられるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた馴染みの家具が持ち込まれており、利用者が居心地良く過ごせるような空間となっている。また、各居室のドアが障子風となっているため、共用空間で寛ぐ他の利用者の気配を感じながらも一人でも安心して過ごせるような工夫をしている。		

※  は、重点項目。